

コロナ禍就活 孤立防ぎ

県内でも企業説明会解禁

2023年春に卒業予定の大学生・大学院生の新卒採用に関する企業の広報が1日解禁となり、県内でも就職活動が本格化した。長期化する新型コロナウイルス禍を受け、熊本大は昨年に続き、対面ではないオンライン形式による企業・官公庁の学内合同説明会をスタートした。

合同説明会は5日間、

県内外の約200社・団体がオンラインで、事業概要や採用スケジュールなどを説明する。学生は約340人が参加を予定しており、興味のある企業や官公庁の

時間帯を選び、パソコンを使って視聴する。

初日は、東京や九州に本社を置くメーカーや商社など40社が参加。学生は文字を入力して質問するチャット機能を使って「社内の雰囲気はどのような感じですか」などと質問していた。熊本大の就職支援課はパソコン5台を並べて、5社の説明会の様子を確認。専

門職員の日和田伸一さん(61)は「企業はアフターコロナを見据えて、会社の原動力になる人材を求めている。学生はしっかり見極めてほしい」と話した。

この日は、崇城大もオンラインの学内企業説明会を開催。企業の担当者が採用や今後のインターンシップ(就業体験)について説明した。(中原功一朗)

学生「情報乏しく不安」

新型コロナウイルスの感染拡大以降、3回目となる就職活動の季節となった。学生と企業が直接対面しない「オンライン就職」が一般化。一方で、授業もオンラインとなり、友人と会うことも少ない学生からは「ほかの人の就活の様子が分からない」といった不安の声が上がる。大学は相談会を小まめに開いたり、ウェブ面接対策を強化して、就活生をバックアップしている。

2月24日、熊本大(熊本市中央区)の就職支援課が就活生向けに開いたオンライン相談会。参加した文学部や工学部の3年生3人は「対面授業が少なく、周りがどの程度、企業にエントリーしているかわからない」「コロナで友人と会えず、情報が乏しい」と

ウェブ面接対策 大学が支援

不安を口にした。職員は「みんな条件は同じ。対面でなく、自宅で就活できるため、地方学生にとっては、就活にかかる移動費や食費が少なくて済むメリットもある。逆境をポジティブに捉える人を企業は求めている」と励ました。就活が本格化する直前にこのような相談会を開くのは初めて。コロナ感染の第6波が猛威を振るう中、学生同士の情報交換も十分にできていないとの観測から企画した。

崇城大(西区)は業界の企業説明会に参加した学生にアンケートを取っている。「1人暮らしの学生は就活について誰とも情報交換していないことはあり得る」と危惧したためだ。自由記述の欄には「興味が増した」「もっと話を聞きたくなった」といった意見が並んだ。インターンシップ(就業体験)や企業訪問、採用面接をオンライン化している企業も多い。アンケートを発表した就職課の前田和則さん(41)は「就活で学生が孤立しないようフォローしていく」と言う。県立大(東区)もキャリアセンターの担当者が、就活情報を伝える学生への一斉メールの文字や色を変えたり、イラストを添えたりして、目を引くよう工夫している。就活セミナーの参加者は例年を大幅に上回る1000〜2000人に増えたという。熊本学園大(中央区)はウェブ面接の対策を強化。今年